

# 本会議での質問と答弁

本会議での質問と答弁は、要約したものを掲載しています。

詳細は、2月下旬以降、各市立図書館において会議録をご覧ください。

また、市議会のホームページの会議録検索システムでも3月中旬以降閲覧できます。

## 九州厚生年金会館の存続を！

議員 来年9月にも廃止・売却が予想される九州厚生年金会館の機能存続を求める市民運動が始まっている。このような市民運動や市議会の動きに対し、市はどのように考え、また、今後どう取り組むのか。

企画部長 同会館は、本市の文化施設として多くの市民に利用されており、今後も必要な施設であると考えている。このような中、市民運動や市議会の動きは、同会館などの整理・合理化を行う年金・健康保険福祉施設整理機構等に対し、強く地元の意向を示す手段であり、大変心強く感じている。

しかし、同会館は一般競争入札により売却される方針であり、仮に市が入札に参加しても落札できる保証はない。また、これまで同機構に対し、機能存続を入札条件とすることなどを要望してきたが、「一般競争入札のため条件はつけられない」との回答であった。

このように、多くの課題はあるが、今後とも機能存続を入札条件

とすることを粘り強く要望するとともに、他に市として何ができるのか引き続き検討していきたい。

## さらなる知識の啓発を！

### ▼アスベスト健康被害▲

議員 本市には、かつてアスベストを使用した製造工場等の事業所が7か所あった。その周辺住民から不安の声が寄せられているが、アスベストによる健康被害について、実態調査を含め、周知・啓蒙すべきではないか。

保健部長 アスベストによる健康被害は、ばく露から発症までの潜伏期間が30年から40年と非常に長い。将来にわたって市民に正しい知識を啓発することが重要である。

そこで、相談や申請のための窓口を保健所や各区役所に設置しており、今年10月までの相談件数は360件となっている。また、パンフレットを配布するなど、アスベストによる健康被害に関する正しい知識の啓発も行っている。今後とも、窓口での相談の対応や啓発を行うなど、引き続き市民の健康を守るために努力したい。

本会議では、各会派から次の16人の議員が質疑・質問を行いました。(発言順。掲載記事の順番とは関係ありません。)

大石	正信	(日本共産党)
香月	耕治	(自民市民クラブ)
成重	正文	(公明党)
村上	幸一	(自由民主党)
藤沢	加代	(日本共産党)
宮田	義高	(市民の風)
福島	司	(社市民連合)
森浩	明	(市民の風)
山本	眞智子	(公明党)
森本	由美	(社市民連合)
城戸	武光	(自民市民クラブ)
柳井	健一	(日本共産党)
新上	仲雅	(緑の会)
田仲	和生	(日本共産党)
橋本	雄二	(自民市民クラブ)
日野		

## 財政の改善に向けて

### ▼債権回収の強化対策▲

議員 市税の未収額は、昨年度で約56億円に上っており、仮にこの額がすべて納付された場合、本市の財政改善に大きく寄与することになる。

そこで、債権回収にあたって、本年度の取組と成果を尋ねる。

財政局長 市税対策会議で、本年度の目標収入率を、昨年度を上回る96.4%と設定し、取組を進めている。

まず、主に初期滞納者への納付勧奨を行う「税金・料金お知らせセンター」で、オペレーターの増員と夜間・休日催告の強化を図っている。この結果、9月催告分までで、約4200人の滞納者から約7900万円の納付があった。

また、悪質滞納者に対しては、差押財産のインターネットによる公売なども行っている。不動産では、マンションを3件公売し、約700万円を市税に充当した。

さらに、プロジェクトチームを編成し、現地立入による財産調査も強化していく。

## 北九州空港に路線誘致を！

### ▼仁川空港との連携▲

議員 韓国の仁川空港と北九州空港との連携を進めるには、ともに24時間運用されている強みを活かすべきである。旅客便をはじめ、深夜早朝の貨物便の就航等に向けて、どのようなセールズ活動を行っているのか。

また、その成果を尋ねる。

港務局長 韓国の大手航空会社等に対して路線誘致を行った結果、現時点では旅客便の就航に至っていないが、本年9月、深夜のチャーター便が実現した。

一方、貨物便については、誘致実現の前提として、まず、国際航空貨物の受入ができる機能を、北九州空港に整備する必要がある。このため、関係機関と連携しながら貨物の上屋の整備に努めることにも、駐機スポットなどの整備を国に要望している。

本年8月、日韓政府の航空交渉で、日韓相互の乗り入れ自由化に合意した追い風を活かし、路線誘致の早期実現に向けて努力を続けたい。

## 日韓旅客定期航路の開設について

議員 門司港と釜山港を結ぶ定期航路が、来年6月に開設される予定である。

開設に伴い、岸壁にフェンスなどを設置しなければならないが、関門海峡の景観や釣り人へ与える影響等について、地元との合意が必要ではないか。

市長 フェリーの発着場所は、門司港レトロ地区であり、多くの市民や観光客で賑わっているため、フェンスなどは地元の意見を踏まえて設置する。また、釣り人が、これまでどおり隣接する防波堤に出入りできるよう配慮する。

一方、これまでの地元への説明会では、就航への賛同と、様々な波及効果を期待する声が大きい。同航路の開設は、国内外からの観光客や貨物の増加、市の知名度アップにもつながることから、市としても協力していきたい。



就航予定のフェリー